

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 火・3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	平和講座 On the Peace		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類	総合科学科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 安部 俊二 / Eメールアドレス: <a href="mailto:abe-s@nagasaki-u.ac.jp">abe-s@nagasaki-u.ac.jp</a> / 研究室: 教育学部新館6階 652 研究室 / TEL: (095)819-2309 / オフィスアワー: 水曜 15時から16時まで			
担当教員(オムニバス科目等)	舟越耿一、藤澤秀雄、小峰秀孝、戸田清、長崎新聞記者、葛西よう子、生野正剛		
授業のねらい この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子勤労令などによって動員された若き男女が航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。 敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。 本講座はその決意を受け継ぎ、平和を愛し、探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものである。 授業方法 各授業日ごとに、担当の講師が講義に必要なプリントを用意し、授業を行う。講師によってはビデオなども利用する。 授業到達目標 戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容は多岐にわたるので、各講師がテーマを掲げて講義する。  第1回(9月30日) 舟越耿一「長崎及び文教キャンパスの2つの顔」 第2回(10月7日) 藤澤秀雄「講義の目的・方法、レポート作成の要領」 第3回(10月14日) 舟越耿一「イラク戦争と朝鮮有事」 第4回(10月21日) 舟越耿一「平和的生存権と有事体制、報復の連鎖を断つことばを求めて」 第5回(10月28日) 藤澤秀雄「自伝的昭和史①小学生から見た日本の戦争」 第6回(11月4日) 藤澤秀雄「自伝的昭和史②戦争とは、戦場とは、そこで何が行われたか」 第7回(11月11日) 藤澤秀雄「自伝的昭和史③戦時におけるアメリカ合衆国の戦争」 第8回(11月18日) 小峰秀孝「わたしの被爆体験」 第9回(11月25日) 戸田清「核兵器と劣化ウラン兵器」 第10回(12月2日) 戸田清「ベトナム枯葉作戦、直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力」 第11回(12月9日) 長崎新聞記者「長崎原爆を報道する」 第12回(12月16日) 葛西よう子「戦争と女性①戦争被害者としての女性: 慰安婦、従軍慰安婦、勤労動員、戦争未亡人、出征中の妻②戦争加害者としての女性: 愛国・国防婦人会の戦争協力、参政権運動女性の国家意識と戦争協力」 第13回(1月13日) 葛西よう子「戦争と女性③戦争遂行のための国家の女性観: 第二次大戦からソソヴォ、アフガニスタまで④ジェンダーの視点から戦争と国家を考える」 第14回(1月20日) 生野正剛「外国人労働者の人権(1)」 第15回(1月27日) 生野正剛「 同 (2)」  *11月18日は、被爆体験講話を予定しています。  *特別レポート作成についての問合せは、藤澤秀雄 (TEL095-882-5954) まで。			
キーワード	各講師が掲げたテーマに記述されている言葉の他に、防塁、防空頭巾、高射砲、焼夷弾、米国の爆撃機 (B17~B52)、ナパーム弾、トマホーク、特高、特攻、特殊潜航艇、二階級特進、靖国神社、従軍看護婦、慰問袋、千人針、武運長久、戦艦、潜水艦、航空母艦、原子力艦、イーゼス艦、ICBM		
教科書・教材・参考書	教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またビデオやスライドなどを利用して講義の理解を深めるのに役立つ。 最初の講義日に参考図書リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等	出席を欠かさず受講することを重視する立場から、課題レポート(70%)、出席回数および担当講師が課したレポートの成績(30%)で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			